



# Sun N1 System Manager 1.1 イン ストールおよび構成ガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-4168  
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、N1、Sun Fire、JDK、Netra、Sun Enterprise は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.1 Installation and Configuration Guide

Part No: 819-2665



050926@13215



# 目次

---

はじめに	5
<b>1 Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストールと設定</b>	<b>9</b>
Sun N1 System Manager のインストールの前提条件	9
▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする	10
Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストール	11
▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする	11
N1 System Manager システムの設定	14
▼ Sun N1 System Manager システムを設定する	14
本稼働の準備	19
パフォーマンスのガイドライン	19
N1 System Manager のパフォーマンスチューニング	20
▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる	20
<b>2 Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール</b>	<b>23</b>
Sun N1 System Manager ソフトウェアのアンインストール	23
▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする	23
<b>3 障害追跡</b>	<b>25</b>
一般情報	25
N1 System Manager を使ってシステム管理サーバーを管理できない	25
工場出荷時状態のサーバーの検出	26
DHCP サービスと N1 Grid Service Provisioning System の衝突	26
エラーメッセージ	27

問題	28
管理サーバーの設定	29
▼ /etc/hosts ファイルを更新する	29
▼ /etc/resolv.conf ファイルを更新する	29
▼ プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする	30
プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア	30
索引	33

# はじめに

---

『Sun N1 System Manager 1.1 インストールおよび構成ガイド』では、オペレーティングシステムと Sun N1 System Manager システムをインストールし、設定するための要件、ネットワークとハードウェアの接続と準備の方法、および手順を示します。

---

## 対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager のソフトウェアとハードウェアのインストールを行うシステム管理者を対象としています。システム管理者は、次の分野の知識と経験が必要です。

- Linux と Solaris™ の各オペレーティングシステム、および各オペレーティングシステムに付属するネットワーク管理ツール
- Sun や Cisco などのベンダーが提供するネットワーク機器やネットワークデバイス
- DNS、DHCP、IP アドレスの指定、サブネットワーク、VLAN、および SNMP
- ネットワークデバイスの接続とケーブル

---

## マニュアルの構成

- 第 1 章では、N1 System Manager ソフトウェアをインストール、設定、および調整する方法を示します。
- 第 2 章では、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする方法を示します。

- 第3章では、問題およびエラーメッセージの一覧と、問題の解決方法を示します。

---

## 関連マニュアル

このマニュアルは、6部ある実装関連のマニュアルセットの1部です。マニュアルは、次の順序でお読みください。

- 『Sun N1 System Manager 1.1 ご使用にあたって』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 インストールおよび構成ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 コマンド行レファレンスマニュアル』

---

## Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com<sup>SM</sup> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は <http://docs.sun.com> です。

---

## Sun マニュアルの注文方法

Sun Microsystems は、精選した印刷版の製品マニュアルを提供しています。マニュアルの一覧と注文方法については、<http://docs.sun.com> の「印刷された文書の購入」を参照してください。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。  ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  system%
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% <b>su</b>  Password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> `^#define \ <b>XV_VERSION_STRING</b> `

## コマンド例のシェルプロンプト

以下の表は、C シェル、Bourne シェル、Korn シェル、および管理サーバー N1-ok> シェルの、デフォルトのシステムプロンプト、スーパーユーザーのプロンプトを示しています。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine_name</i> %
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine_name</i> #
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$

表 P-2 シェルプロンプト (続き)

シェル	プロンプト
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#
N1-ok シェル	N1-ok>

このマニュアルでは、特に指定しないかぎり、N1-ok> シェルの説明に「コマンド行」という用語を使用します。N1-ok> シェルは、次のいずれかのシェルです。

- ブラウザインタフェースのコマンド行区画から使用できるシェル。
- 管理サーバーに ssh でログインしたあと、端末のコンソールウィンドウから使用できるシェル。
- n1sh コマンドで始まるすべてのコマンドを実行する標準の UNIX のシェルまたは Linux のシェル。



## 第 1 章

---

# Sun N1 System Manager ソフトウェア のインストールと設定

---

この章では、管理サーバーで Sun N1 System Manager ソフトウェアを初めてインストールし、設定する手順を示します。この章では、次の内容について説明します。

- 9 ページの「Sun N1 System Manager のインストールの前提条件」
- 11 ページの「Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストール」
- 14 ページの「N1 System Manager システムの設定」
- 19 ページの「本稼働の準備」
- 19 ページの「パフォーマンスのガイドライン」
- 20 ページの「N1 System Manager のパフォーマンスチューニング」

---

## Sun N1 System Manager のインストール の前提条件

Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールするには、次の前提条件を満たしている必要があります。

- 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の第 2 章「Sun N1 System Manager システムとネットワークの準備」に従って、ハードウェアが接続され、構成されている。
- 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の第 3 章「管理サーバーでの OS のインストールと設定」に従って、管理サーバーのハードウェアの種類に適した OS が N1 System Manager 管理サーバーにインストールされている。

Sun N1 System Manager のインストールには、次の 2 つの方法があります。

- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがある場合は、[11 ページの「N1 System Manager ソフトウェアをインストールする」](#)に従って、インストール DVD-ROM から Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールできます。

- 管理サーバーとして選択したサーバーに DVD ドライブがない場合は、次の手順に従って N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロード、展開、およびマウントする必要があります。

## ▼ Sun N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードし、マウントする

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
  2. (省略可能) **Sun Download Manager** をダウンロードし、インストールします。  
Web ブラウザを使用してサイズの大きなファイルをダウンロードすると、失敗することがあります。このため、N1 System Manager のインストール ISO イメージをダウンロードするときは、Sun Download Manager を使用することを推奨します。Sun Download Manager のダウンロードおよびインストールの方法については、<http://www.sun.com/download/sdm/index.xml> を参照してください。
  3. **N1 System Manager** のインストール **ISO** イメージを管理サーバーにダウンロードし、展開します。  
ダウンロード元については、N1 System Manager eFulfillment のマニュアルと電子メールを参照してください。管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステム用の ISO イメージをダウンロードします。
    - n1sm-1.1-ga-linux-x86-iso.zip
    - n1sm-1.1-ga-solaris-x86-iso.zip
    - n1sm-1.1-ga-solaris-sparc-iso.zip
  4. **N1 System Manager** のインストール **ISO** イメージの **zip** ファイルを展開します。  
「unzip ISO-image-name.zip」と入力します。ここで、ISO-image-name は、ダウンロードした N1 System Manager のインストール ISO イメージの zip ファイルの名前です。
  5. 管理サーバー上で、インストール **ISO** イメージのマウントポイントになるディレクトリを作成し、**ISO** イメージをマウントします。  
N1 System Manager のインストール ISO イメージを n1sm-install.iso という名前で保存し、/n1sminstall という名前のディレクトリにマウントするとします。マウントポイントになるディレクトリを作成し、ISO イメージをマウントするには、次のように入力します。
    - Solaris の場合:
 

```
# mkdir /n1sminstall
# lofiadm -a /n1sm-install.iso
/dev/lofi/1
# mount -F hsfs -o ro /dev/lofi/1 /n1sminstall/
```
    - Linux の場合:
 

```
mkdir /n1sminstall
# mount -o loop,ro /n1sm-install.iso /n1sminstall
```

次の手順 次の節で示す手順で Sun N1 System Manager ソフトウェアをインストールします。

---

## Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストール

この節では、N1 System Manager ソフトウェアを管理サーバーにインストールする手順を示します。



---

注意 – 管理サーバーは N1 System Manager ソフトウェア専用にします。管理サーバーにほかのアプリケーションをインストールしないでください。

---

### ▼ N1 System Manager ソフトウェアをインストールする

- 始める前に
- 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の第2章「Sun N1 System Manager システムとネットワークの準備」に従って、ハードウェアが接続され、構成されている必要があります。
  - 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の第3章「管理サーバーでの OS のインストールと設定」に従って、管理サーバーのハードウェアの種類に適した OS が N1 System Manager 管理サーバーにインストールされている必要があります。

---

注 – N1 System Manager ソフトウェアのインストール時間はネットワーク構成によって異なり、最大で2時間かかる場合があります。

---

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
  2. **N1 System Manager** のインストールディレクトリに移動します。  
N1 System Manager の DVD からインストールする場合は、次のディレクトリに移動します。
    - Solaris SPARC の管理サーバーの場合:  

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_sparc/Product/installer
```
    - Solaris x86 の管理サーバーの場合:  

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Solaris_x86/Product/installer
```

■ Linux x86 の管理サーバーの場合:

```
# cd /cdrom/n1_system_mgr/Linux_x86/Product/installer
```

N1 System Manager のインストール ISO イメージからインストールする場合は、パス名の /cdrom を、マウントポイントのディレクトリ名に置き換えます。

3. 「./install」と入力します。

ソフトウェア評価規約が表示されます。

4. 規約に同意してインストールを継続するかどうかを選択します。

規約をよく読みます。インストールを継続するには「y」を、インストールを中止するには「n」を入力します。

インストールを継続すると、インストールプロセスによって必要な Perl モジュールが確認されます。確認が終了したら、N1SM インストーラのメニューが表示され、インストールが開始します。

次に示すように、N1SM インストーラのメニューと、N1SM インストーラによってインストールされるアプリケーションの表示方法は、管理サーバーにインストールされているオペレーティングシステムによって異なります。

■ Solaris 10

```
N1SM Installer (SunOS)
```

1. Install OS packages.	[Not Completed]
2. Install Expect.	[Not Completed]
3. Install IPMI tool.	[Not Completed]
4. Install service provisioning components.	[Not Completed]
5. Install OS provisioning components.	[Not Completed]
6. Copy DHCP configuration file.	[Not Completed]
7. Install user interface components.	[Not Completed]
8. Install service container components.	[Not Completed]
9. Install N1 System Manager.	[Not Completed]

```
Non-interactive install in progress
```

```
Executing current step: Install OS packages...
```

■ Linux

```
N1SM Installer (Linux)
```

1. Check that required RPM packages are present.	[Not Completed]
2. Install IPMI tool.	[Not Completed]
3. Install JDK 1.5.	[Not Completed]
4. Install Python.	[Not Completed]
5. Install service provisioning components.	[Not Completed]
6. Install OS provisioning components.	[Not Completed]
7. Copy DHCP configuration file.	[Not Completed]
8. Install user interface components.	[Not Completed]
9. Install service container components.	[Not Completed]
10. Install N1 System Manager.	[Not Completed]

Non-interactive install in progress.

---

注 – 管理サーバーに RHEL 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 をインストールし、RHEL 3.0 AS Update 2、Update 3、または Update 4 以外の RPM をインストールしている場合は、インストールの手順 1 が完了したあとに、N1 System Manager で RPM が機能しない可能性があるという警告が表示される場合があります。該当する RPM の一覧に続いて、検出された RPM の一覧が表示されます。このメッセージは単なる警告なので、c キーを押すとインストールを続行できます。このオプションは、インストールが失敗した場合に現在使用可能なオプション (再試行する場合は t、終了する場合は x) に追加されたものです。

RedHat Enterprise Linux AS Update 3 以降をインストールしている場合は、サービスコンテナのコンポーネントのインストールが完了したあとに、次のメッセージが表示される場合があります。

This installer has determined that some rpms currently installed on this system have later versions than those currently required by N1SM. If you encounter any problems related to these substitutions, you might need to obtain and install the exact version of the software required by the installer before re-installing N1SM.

c を押して N1 System Manager のインストールを続行することを促すプロンプトが表示されます。

---

インストールプロセスによって各処理が順番に実行されます。各処理が完了すると、処理の状態が「Completed」に更新されます。

処理に失敗したら、通知が表示され、状態が「Not Completed」のままか、「Partially Run」に変更されます。インストールプロセスを終了し、ログファイル /var/tmp/installer.log.latest で問題の原因を調べてください。問題が解決したら、インストールプロセスを再び実行します。

インストールプロセスが完了すると、設定ユーティリティの実行を求めるメッセージが表示されます。

N1SM installation is complete  
Run the n1smconfig utility to configure N1SM.

次の手順    次の節、[14 ページの「N1 System Manager システムの設定」](#)に従って N1 System Manager システムを設定します。

---

# N1 System Manager システムの設定

この節では、N1 System Manager システムを設定する手順を示します。

初期設定は `n1smconfig` コマンドを実行して行います。N1 System Manager を設定し直す必要が生じた場合は、`n1smconfig` コマンドを再実行します。

---

ヒント – 続ける前に、管理サーバーの `root` アカウントのパスに `/opt/sun/n1sm/bin` を追加します。

---

## ▼ Sun N1 System Manager システムを設定する

始める前に 11 ページの「[Sun N1 System Manager ソフトウェアのインストール](#)」に従って N1 System Manager ソフトウェアがインストールされている必要があります。

- 手順
1. **N1 System Manager** 管理サーバーに **root** でログインします。
  2. 「`/usr/bin/n1smconfig`」と入力して設定プロセスを起動します。  
現在のシステム設定が表示され、ネットワークインタフェースの一覧が表示されます。プロビジョニングネットワークのインタフェースの指定を求めるメッセージが表示されます。
  3. プロビジョニングネットワークインタフェースのポートを指定します。  
使用可能なインタフェースの一覧が表示されます。マシンのアーキテクチャーおよびインストールされている OS に応じて、プロビジョニングインタフェースで使用するインタフェース名を入力します (`eth1`、`hme0`、`bge1` など)。  
  
DHCP サーバーに使用する IP アドレスの範囲を指定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。
  4. **DHCP** サーバーのアドレス範囲を設定するかどうかを選択します。  
DHCP サーバーの IP アドレス範囲を設定すると、指定した IP アドレスの範囲がプロビジョニング可能なサーバーに割り当てられ、プロビジョニングネットワークを介したオペレーティングシステムとアップデートのロード、およびプロビジョニング可能なサーバーのオペレーティング環境の実行時監視に使用されます。  
  
DHCP サーバーの IP アドレス範囲を設定しなかった場合は、N1 System Manager の `load` 操作を使用するときに静的アドレスを指定する必要があります。

---

注 – 管理サーバーには、データネットワーク用の DHCP サービスが提供されていません。データネットワークの IP サービスを動的に設定する場合は、データネットワーク用の外部 DHCP サーバーを用意する必要があります。同じプロビジョニングネットワークに別の DHCP サーバーを設置することはできません。

---

- DHCP サーバーに使う IP アドレスの範囲を指定する場合は、「y」を入力します。



---

注意 – 管理ポートアドレスがプロビジョニングサブネットと同じサブネット上にある場合は、管理サーバーの IP アドレスが指定範囲内のアドレスと重複しないように注意します。この規則によって、DHCP サーバーは、DHCP クライアントの条件を使用して解決しないクライアントに対し、重複する IP アドレスを割り当てないようにします。

---

DHCP の開始 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う開始 IP アドレスを入力します。

DHCP の終了 IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。DHCP サーバーが使う終了 IP アドレスを入力します。

- IP アドレスの範囲を指定しない場合は、「n」を入力します。

既存の DNS 設定の IP アドレスとドメイン検索リストが表示されます。ネームサーバーと検索リストのエントリを設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

5. ネームサーバーを設定するかどうかを選択します。

- ネームサーバーとドメイン検索リストを設定する場合は、「y」を入力します。ネームサーバーのアドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。手順 6 に進んでください。
- 表示されるネームサーバーとドメイン検索リストを使う場合は、「n」を入力します。SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。手順 8 に進んでください。

6. ネームサーバーを設定します。

ネームサーバーの IP アドレスを半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

129.111.111.11 129.111.111.22

検索サフィックスリストの入力を求めるメッセージが表示されます。

7. 検索ドメインを指定します。

DNS の検索に使うドメインの名前を半角スペースで区切って入力します。次に例を示します。

location-one.company.com location-two.company.com location-three.company.com

SMTP サーバーでイベント通知を設定するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

8. SMTP でイベント通知を設定するかどうかを選択します。

- SMTP サーバーを設定する場合は、「**y**」を入力します。SMTP サーバーの名前または IP アドレスの入力を求めるメッセージが表示されます。[手順 9](#)に進んでください。
- SMTP サーバーを設定しない場合は、「**n**」を入力します。ログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 10](#)に進んでください。

9. SMTP サーバーの名前または IP アドレスを指定します。

SMTP サーバーの完全修飾名または IP アドレスを入力します。次に例を示します。

smtp.mycompany.com

または

129.111.222.33

ログの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

10. ログの設定を変更します。

- ログを設定する場合は「**y**」を入力します。ログの設定に関する情報が表示されます。[手順 11](#)に進んでください。
- ログを設定しない場合は「**n**」を入力します。設定プロセスによって、システム設定の変更内容が表示されます。[手順 13](#)に進んでください。

11. ログを設定します。

Return キーを押してデフォルトの「ALL」を使用するか、指定内容を入力します。topic.severity の値の入力を求めるメッセージが表示されます。

12. トピック重要度の値を指定します。

次のいずれかの操作を行います。

- Return キーを押してデフォルト値の 0 を使用します。
- 次の一覧に従って異なる重要度値 (0 ～ 7) を入力します。
  - 0 = 不明
  - 1 = その他
  - 2 = 情報
  - 3 = 警告
  - 4 = マイナー
  - 5 = メジャー
  - 6 = 重大
  - 7 = 致命的
- 重要度の指定を中止するには「**q**」を入力します。ログの設定は行われません。



ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

**13. ジョブのタイムアウトの設定を変更するかどうかを選択します。**

一部の OS ディストリビューションは非常に大きく、サーバーのプロビジョニングを行うときにデフォルトで設定されている時間よりも長い時間を要する場合があります。大きな OS ディストリビューションのプロビジョニングを行う場合は、タイムアウト値を延長します。

- ジョブのタイムアウトの設定を変更する場合は、「**y**」を入力します。  
ジョブのタイムアウト値の説明が表示されます。別のタイムアウト値を入力します。
- ジョブのタイムアウトの設定を変更しない場合は、「**n**」を入力します。

サーバー起動時に N1 System Manager (N1SM) を起動するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

**14. サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するかどうかを選択します。**

- サーバー起動時に N1 System Manager システムを起動するには、「**y**」を入力します。
- 管理サーバーの再起動後に N1 System Manager システムを手動で起動する場合は、「**n**」を入力します。N1 System Manager を手動で起動できることを通知するメッセージが表示されます。

設定が正常に完了したあとで N1 System Manager を起動するには、コマンド「/etc/init.d/n1sm init start」を入力します。

自動ログイン機能があるプロビジョニング可能なサーバーの場合、ILOM Web GUI への自動ログインを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

**15. プロビジョニング可能なサーバーの ILOM GUI 自動ログイン機能を有効にするかどうかを選択します。**

Sun Fire™ X4100 サーバーと Sun Fire X4200 サーバーには、遠隔デバイスへの接続やシステム監視の実行などのさまざまなシステム管理作業を行うための Web GUI が用意されています。ILOM GUI 自動ログイン機能を有効にした場合、N1 System Manager ブラウザインタフェースの「サーバーの詳細」ページの「アクション」メニューに「Web Console を開く」メニュー項目が表示されます。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.1 オンラインヘルプ』の「Sun Fire X4000 シリーズの Sun ILOM Web GUI を開く」を参照してください。



---

注意 – Sun Fire X4100 サーバーと X4200 サーバーの Web Console (Sun ILOM Web GUI) 自動ログイン機能を有効にすると、ログインページの Web ページソースを表示できるユーザーは、サーバーのサービスプロセッサの資格を見ることができてしまいます。

---

- 自動ログイン機能を有効にする場合は、「**y**」を入力します。
- 自動ログイン機能を有効にしない場合は、「**n**」を入力します。

Linux の管理サーバーを設定している場合は、推奨されるシステム設定が設定プロセスによって表示されます。設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。[手順 17](#)に進んでください。

Solaris の管理サーバーを設定している場合は、プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールにアクセスできるように SSHv1 プロトコルを有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

#### 16. SSHv1 プロトコルを有効にするかどうかを選択します。

SSHv1 は、Solaris の N1 System Manager ブラウザインタフェースからプロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールへの遠隔アクセスを行うときに必要です。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.1 オンラインヘルプ』の「サーバー用のシリアルコンソールを開く」を参照してください。



注意 – SSHv1 については、セキュリティーに関連する次の問題を考慮する必要があります。

- ブラウザインタフェースからシリアルコンソールへのアクセスで使用されるアプレットには、証明書に基づく認証機能がありません。このアプレットでは、管理サーバーへの通信でのみ SSHv1 が使用され、また SSHv1 を使用するには、管理サーバーで SSHv1 が有効になっている必要があります。この問題が心配な場合は、コマンド行から connect コマンドを実行することでシリアルコンソール機能を使用できます。
- 管理サーバーからプロビジョニング可能なサーバーのプロビジョニングネットワークインタフェースへの接続中に使用される SSH フィンガープリントは、N1 System Manager ソフトウェアによって自動的に確認されます。このため、プロビジョニング可能なサーバーは中間者攻撃を受けやすくなります。

- SSHv1 を有効にする場合は、「**y**」を入力します。
- SSHv1 を有効にしない場合は、「**n**」を入力します。

設定プロセスによって、システム設定の変更内容が表示されます。設定を適用するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。

#### 17. 設定を確認します。

- 設定を適用するには、「**y**」を入力します。  
Enter キーを押して N1 System Manager を起動します。
- 設定が正しくない場合は、「**n**」を入力します。  
N1 System Manager が正常に機能するには、設定をやり直し、適用する必要があります。設定プロセスが終了し、システムプロンプトが表示されます。N1 System Manager を設定するには、n1smconfig コマンドを再び実行します。

次の手順 次の節に従って、N1 System Manager システムを本稼働させる準備を行います。

---

## 本稼働の準備

この節では、N1 System Manager を調整する際のガイドラインと手順を示します。

N1 System Manager のパフォーマンスを最適化するため、プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に、管理対象となるサーバーの数に基づいて N1 System Manager を調整する必要があります。

---

## パフォーマンスのガイドライン

N1 System Manager 環境のパフォーマンスを最適化するには、次のガイドラインおよび推奨事項に従ってください。

- プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に、サーバーの数に基づいて N1 System Manager を調整します。調整方法については、[20 ページの「N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる」](#)を参照してください。
- OS ディストリビューションの作成ジョブを同時に実行しないようにします。OS ディストリビューションの作成時には、CPU とディスクの使用率が非常に高くなります。また、多数の監視サーバーへのオペレーティングシステム、ファームウェア、および OS 管理エージェントのプロビジョニング時にも、CPU とディスクの使用率が非常に高くなります。これらのジョブは、同時に実行する数を制限することで、パフォーマンス上の問題を回避します。
- システムで同時に実行されるジョブの数を 10 個以下に制限します。実行中のジョブの合計数を確認するには、コマンド行インタフェースまたは n1sh シェルで、コマンド「show job state running」を入力します。
- n1sh シェルの非対話型コマンドを必ずフォアグラウンドで実行します。
- グループあたりのサーバー数を最大にし、多数の個別のサーバーではなく、グループに対して操作を実行します。グループに対して操作を実行すると、管理する必要のあるグループの数と、特定の作業を行うために実行する必要のあるジョブの数を最小限に抑えることができます。
- 遠隔コマンド実行やオペレーティングシステムのアップデートのインストールなど、オペレーティングシステムレベルを対象とした操作を実行するときは、サーバーの OS の健全性が「不明」以外であることを事前に確認します。
- ファームウェアのアップデートなど、サービスプロセッサ (SP) を対象とした操作を実行するときは、サーバーのハードウェアの健全性が「不明」以外であることを事前に確認します。
- プロビジョニング可能なサーバーに対する操作を実行するときは、対象となるサーバーに必要なインタフェースのネットワーク接続の状態が「アクセス不能」以外であることを事前に確認します。

次の節では、N1 System Manager システムを調整する手順を示します。

## N1 System Manager のパフォーマンスチューニング

N1 System Manager のパフォーマンスを最適化するため、管理対象となるプロビジョニング可能なサーバーの数に基づいて N1 System Manager を調整します。次の手順は、プロビジョニング可能なサーバーの検出を行う前に行う必要があります。

### ▼ N1 System Manager のパフォーマンスを向上させる

始める前に RedHat をインストールしている管理サーバーの場合は、`/etc/sysconfig/nfs` ファイルに `RPCNFSDCOUNT=32` を追加し、`root` で `/etc/init.d/nfs restart` を実行して、NFS を再起動します。

手順 1. 管理サーバーに `root` でログインします。

2. NFS ファイルを更新します。

a. `/etc/sysconfig` ディレクトリに移動します。

b. `nfs` ファイルを開き、次の行を追加します。

```
RPCNFSDCOUNT=32
```

c. `nfs` ファイルを保存し、閉じます。

d. 「`/etc/init.d/nfs restart`」と入力して NFS を再起動します。

3. `/etc/opt/sun/nlsc/monitoring.properties` ファイルを更新します。

`/etc/opt/sun/nlsm/monitoring.properties` ファイルを開き、プロビジョニング可能なサーバーの数に基づいて次の調整可能パラメータを設定します。

調整可能パラメータ (秒単位)	プロビジョニング可能なサーバーの数			
	1 ~ 32	33 ~ 64	65 ~ 96	97 ~ 128
<code>pollinginterval.hardwarehealth</code>	120	300	480	600

調整可能パラメータ (秒単位)	プロビジョニング可能なサーバーの数			
	1 ～ 32	33 ～ 64	65 ～ 96	97 ～ 128
<i>pollinginterval.osresources</i>	120	300	480	600
<i>pollinginterval.network</i>	120	300	480	600

注 - N1 System Manager のコマンド行プロンプトで次のように入力して、個々のプロビジョニング可能なサーバーの調整可能パラメータを設定することもできます。

```
N1-ok> set server server monitor hardwarehealth interval interval
N1-ok> set server server monitor osresources interval interval
N1-ok> set server server monitor network interval interval
```

ここで、*server* はプロビジョニング可能なサーバーの管理名で、*interval* は監視の間隔 (秒単位) です。

詳細は、N1 System Manager のコマンド行プロンプトで「**help set server**」と入力してください。

#### 4. **package.cache.xml** ファイルを更新します。

/opt/sun/nlmc/lib/package.cache.xml ファイルを開き、attribute name="FirmwareInfos" を含む行を探します。この行を次のように変更します。

```
<attribute name="FirmwareInfos" refresh-interval="-1"
  delay="none" persistent="true"> />
```

このように記述すると、N1 System Manager の再起動後、初めて実行する show server コマンドが完了するまでの時間が短縮されます。

#### 5. N1 System Manager のプロセスをすべて終了します。

「**/etc/init.d/nlsmgmt stop**」と入力して N1 System Manager を終了します。

N1 System Manager のすべてのプロセスが終了するのを待ちます。

#### 6. N1 System Manager のすべてのプロセスを起動します。

「**/etc/init.d/nlsmgmt start**」と入力して N1 System Manager を起動します。

次の手順

- N1 System Manager にログインします。ログイン方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「N1 System Manager へのアクセスの概要」を参照してください。
- N1 System Manager のユーザーを定義します。定義方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「ユーザーの管理」を参照してください。

- N1 System Manager のロールを定義します。定義方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「ロールの管理」を参照してください。
- 検出を実行してプロビジョニング可能なサーバーを検索し、特定します。検出の実行方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「サーバーの検出」を参照してください。
- プロビジョニング可能なサーバーのオペレーティングシステムディストリビューションを作成します。作成方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「OS ディストリビューションの管理」を参照してください。
- プロビジョニング可能なサーバーのオペレーティングシステムプロファイルを作成します。作成方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「OS プロファイルの管理」を参照してください。
- オペレーティングシステムディストリビューションをプロビジョニング可能なサーバーにインストールします。インストール方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「OS プロファイルの配備による OS ディストリビューションのインストール」を参照してください。

## 第 2 章

---

# Sun N1 System Manager ソフトウェア のアンインストール

---

この章では、N1 System Manager ソフトウェアを管理サーバーからアンインストールする手順を示します。

N1 System Manager をアンインストールする前に、管理システムのデータベースと構成ファイルをバックアップします。バックアップの方法については、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「N1 System Manager のデータベースおよび構成ファイルのバックアップと復元」を参照してください。

---

## Sun N1 System Manager ソフトウェアの アンインストール

この節では、N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする手順を示します。

### ▼ N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールする

- 手順
1. N1 System Manager 管理サーバーに **root** でログインします。
  2. N1 System Manager のプロセスをすべて終了します。  
端末ウィンドウで「**/etc/init.d/nlsminit stop**」と入力します。「N1 services stopped」というメッセージを確認してから続行します。
  3. 次のコマンドを入力して N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールします。  
**/nlgc-setup/installer/install -e**

アンインストールプロセスによって N1 System Manager ソフトウェアとコンポーネントの削除が開始されます。アンインストールプロセスが完了すると、「N1SM is uninstalled」というメッセージが表示されます。

4. 管理サーバーを再起動してからほかの作業を行います。



## 第 3 章

---

# 障害追跡

---

この章では、Sun N1 System Manager のインストール時に表示されるエラーメッセージや発生する可能性のある問題の一覧と、その問題を解決する手順を示します。この章では、次の内容について説明します。

- 25 ページの「一般情報」
- 27 ページの「エラーメッセージ」
- 28 ページの「問題」
- 29 ページの「管理サーバーの設定」
- 30 ページの「プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア」

---

## 一般情報

この節では、N1 System Manager の運用プロセスに関する情報を示します。この節では、次の内容について説明します。

- 25 ページの「N1 System Manager を使ってシステム管理サーバーを管理できない」
- 26 ページの「工場出荷時状態のサーバーの検出」
- 26 ページの「DHCP サービスと N1 Grid Service Provisioning System の衝突」

## N1 System Manager を使ってシステム管理サーバーを管理できない

N1 System Manager を使って、Sun Management Server、Sun Control Station などのシステム管理ソフトウェアや、N1 System Manager を含むその他のシステム管理アプリケーションがインストールされたサーバーを管理しないでください。

## 工場出荷時状態のサーバーの検出

工場出荷時状態のプロビジョニング可能なサーバーを検出しようとする、N1 System Manager の検出処理が、プロビジョニング可能なサーバーに自動的に SSH アカウントと IPMI アカウントを設定しようとします。

検出処理では、次のように資格が設定されます。

- Sun Fire X4100 サーバーおよび X4200 サーバー
  - SSH ユーザー = root
  - SSH パスワード = changeme
  - IMPI ユーザー = root
  - IMPI パスワード = changeme
- Sun Fire V20z サーバーおよび V40z サーバー
  - SSH ログイン = admin
  - SSH パスワード = admin
  - IMPI ログイン = なし
  - IMPI パスワード = admin
  - SNMP 読み取りコミュニティ文字列 = public
- Sun Fire V210、V240、V440 の各サーバー
  - Telnet ログイン = admin
  - Telnet パスワード = admin

SSH と IPMI のログインアカウントとパスワードを指定してある場合、プロビジョニング可能なサーバーはユーザーが指定した資格を使って設定されます。資格を 1 つだけ指定した場合、もう一方の資格には、上記のいずれかのデフォルト設定が使用されます。

自動設定を無効にするには、検出を実行する前に次の行を  
/etc/opt/sun/nlgc/domain.properties に追加します。

```
com.sun.hss.domain.internal.discovery.initializeDevice=false
```

自動設定の無効化を有効にするには、N1 System Manager を再起動する必要があります。自動設定を無効にしたら、SSH アカウントと IPMI アカウントを設定するまでサーバーは検出されません。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「プロビジョニング可能なサーバーの設定」を参照してください。

## DHCP サービスと N1 Grid Service Provisioning System の衝突

N1 System Manager および ISP プラグインが含まれる N1 Grid Service Provisioning System 両方を使っている場合は、特定のサーバーへの OS の配備に、どちらかの製品を選択する必要があります。OS の配備に使う製品を選択したら、root ユーザーとしてオペレーティングシステムのコマンドを使い、他方の製品の DHCP サービスを手動で停止する必要があります。サービスを停止しなかった場合、OS の配備処理が不安定になったり、ネットワーク関連の問題が発生したりする可能性があります。

---

## エラーメッセージ

この節では、Sun N1 System Manager のインストール時に表示されるエラーメッセージと、発生する可能性のある問題の解決方法を示します。

```
[alert] httpd: Could not determine the server's fully
qualified domain name, using 129.123.111.12 for ServerName
scs-httpd: Fri Nov 19 12:47:34 PST 2004 : Deamon started (pid=1473 1485 1486..
```

原因: システムファイル `/etc/resolv.conf` が正しく設定されていないので、システムでサーバーの完全指定によるドメイン名を判別できません。

対処方法: 29 ページの「[/etc/resolv.conf ファイルを更新する](#)」に従って `/etc/resolv.conf` ファイルを更新します。

```
Error waiting for SPS to start.
```

原因: `/etc/hosts` ファイルのエントリが間違っています。

対処方法: 29 ページの「[/etc/hosts ファイルを更新する](#)」に従って `/etc/hosts` を更新します。

```
An exception occurred trying to update SP-IPaddress.
Please refer to the log file for more information.
```

原因: Sun Fire V20z サーバーのファームウェアのバージョン 2.2 以降では、PIC ファームウェアのアップグレードがサポートされていません。PIC ファームウェアのアップグレードは失敗し、ジョブのステップで上記のエラーメッセージが表示されます。

対処方法: V20z サーバーに PIC ファームウェアをロードしないでください。

```
Connect to management server url:443 failed (Connection refused)
```

説明: `https://servername` の形式 (`servername` は管理サーバーの名前) で Sun N1 System Manager サーバーの URL を入力すると、上記のエラーメッセージが表示されます。

原因: システムファイル `/etc/resolv.conf` が正しく設定されていません。

対処方法: 29 ページの「[/etc/resolv.conf ファイルを更新する](#)」に従って `/etc/resolv.conf` を更新します。

```
Fatal error: Command failed for target 'Makefile'
```

```
例: Writing Makefile for Locale::gettext
Makefile out-of-date with respect to
/usr/perl5/5.8.4/lib/i86pc-solaris-64int/Config.pm
/usr/perl5/5.8.4/lib/i86pc-solaris-64
int/CORE/config.h
Cleaning current config before rebuilding Makefile...
make -f Makefile.old clean > /dev/null 2>&1 || /bin/sh -c true
/usr/bin/perl Makefile.PL
Writing Makefile for Locale::gettext
==> Your Makefile has been rebuilt. <==
```

```
==> Please rerun the make command. <==  
false  
*** Error code 255  
make: Fatal error: Command failed for target 'Makefile'
```

原因: システム日付が間違っています。

対処方法: システム日付を設定します。

Starting dhcpd: [Failed]

説明: システム起動時に dhcpd が起動しません。Sun N1 System Manager の設定を行っていない場合は、このメッセージは正常です。

対処方法: [14 ページの「N1 System Manager システムの設定」](#)に従って N1 System Manager システムを設定します。

---

## 問題

プロビジョニング可能なサーバーを検出できない。

原因: プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアが古すぎる可能性があります。

対処方法: ファームウェアのバージョンを確認し、必要な場合は[30 ページの「プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア」](#)に従ってファームウェアをアップデートします。

Sun Fire V20z または Sun Fire V40z のファームウェアのアップデートに失敗する。

原因: 管理ネットワークスイッチでリンク速度の自動ネゴシエーションが有効になっていません。

対処方法: すべての管理ネットワーク接続について、管理ネットワークスイッチでリンク速度の自動ネゴシエーションを有効にします。

管理サーバーの IP アドレスが実際の IP アドレスではなく 127.0.0.1 に解決される。

原因: /etc/hosts に、管理サーバーの IP アドレスとサーバー名の割り当てがありません。

対処方法: [29 ページの「/etc/hosts ファイルを更新する」](#)に従って /etc/hosts ファイルを更新します。

プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサにログオンできない。

原因: サービスプロセッサのアカウントとパスワードが不明です。

対処方法: ハードウェアのマニュアルに従って、サービスプロセッサのアカウントを工場出荷時の設定にリセットします。

---

## 管理サーバーの設定

この節では、管理サーバーの設定ファイルの問題を解決する手順を示します。この節では、次の内容について説明します。

- 29 ページの「`/etc/hosts` ファイルを更新する」
- 29 ページの「`/etc/resolv.conf` ファイルを更新する」
- 30 ページの「プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする」

### ▼ `/etc/hosts` ファイルを更新する

手順 ● `/etc/hosts` を編集し、次の例のようにします。

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1          localhost
111.222.333.44     machine-name loghost
```

ここで `111.222.333.44` は N1 System Manager サーバーの IP アドレスで、`machine-name` は N1 System Manager の管理サーバーの名前です。

たとえば、マシン名が `nlmanager` で、`eth0` に割り当てられている IP アドレスが `129.123.111.12` の場合、`/etc/hosts` ファイルで次のように設定する必要があります。

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1          localhost.localdomain localhost
129.123.111.12     nlmanager loghost
```

`/etc/hosts` ファイルの更新後はシステムを再起動する必要があります。

### ▼ `/etc/resolv.conf` ファイルを更新する

手順 ● `/etc/resolv.conf` を編集し、次のようにします。

```
nameserver server 1 IP address
nameserver name server 2 IP address
nameserver name server 3 IP address
domain your company domain namesearch your company domain name
```

たとえば、最初の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.12、2 番目の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.24、3 番目の DNS サーバーの IP アドレスが 129.123.111.36 とします。組織のドメイン名が mydomain.com の場合、  
/etc/resolv.conf ファイルには次のように入力します。

```
nameserver 129.123.111.12
nameserver name 129.123.111.24
nameserver name 129.123.111.36
domain mydomain.com
search mydomain.com
```

## ▼ プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする

プロビジョニング可能なサーバーの検出時の自動設定を無効にする手順は、次のとおりです。

- 手順 ● **/etc/opt/sun/nlgc/domain.properties** ファイルを編集し、次の行を  
ファイルに追加します。

```
com.sun.hss.domain.internal.discovery.initializeDevice=false
```

自動設定の無効化を有効にするには、N1 System Manager を再起動する必要があります。自動設定を無効にしたら、SSH アカウントと IPMI アカウントを設定するまでサーバーは検出されません。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「プロビジョニング可能なサーバーの設定」を参照してください。

---

## プロビジョニング可能なサーバーのファームウェア

この節では、プロビジョニング可能なサーバーのサポートされているファームウェアのバージョンの一覧、およびプロビジョニング可能なサーバーのファームウェアを確認、ダウンロード、およびアップデートする手順を示します。

次の表に、サポートされているファームウェアのバージョンをマシンの種類別に示します。

	最小	推奨
Sun Fire V20z および V40z SP	2.1.0.5	2.3.0.11

	最小	推奨
Sun Fire V20z BIOS	なし	1.33.5.2
Sun Fire V40z BIOS	なし	2.33.5.2
Sun Fire X4100 および X4200	1.0	1.0
ALOM 機能付き SPARC サーバー	1.4	1.5.3

プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアのバージョンを確認するには、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「プロビジョニング可能なサーバーにインストールされているファームウェアアップデートを一覧表示する」の手順に従います。

N1 System Manager でファームウェアのバージョンを確認できない場合は、次のいずれかまたはすべてが原因になっている可能性があります。

- プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサの IP アドレスが設定されていないので、サーバーを検出できない。

管理プロセッサの IP アドレスが設定されているかどうかを確認し、設定されている場合は N1 System Manager からアクセス可能かどうかを確認します。

管理プロセッサの IP アドレスが正しくない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってプロセッサに IP アドレスを割り当てます。

IP アドレスが正しい場合は、次の項目に進みます。

- プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサのアカウント資格 (ログインアカウントとパスワード) が N1 System Manager で認識されない。N1 System Manager で使われている資格を確認し、プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサのアカウントにアクセスしてみます。プロセッサのアカウントについては、26 ページの「工場出荷時状態のサーバーの検出」を参照してください。

管理プロセッサにアクセスできない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってプロビジョニング可能なサーバーを工場出荷時の設定にリセットし、プロビジョニング可能なサーバーの管理プロセッサに IP アドレスを割り当て直します。プロビジョニング可能なサーバーのリセットを終了したら、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「サーバーの検出」に従ってサーバーに対して検出を実行します。

正常に検出できた場合は、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「プロビジョニング可能なサーバーにインストールされているファームウェアアップデートを一覧表示する」に従ってファームウェアのバージョンを確認します。まだ N1 System Manager でファームウェアのバージョンを確認できない場合は、ハードウェアのマニュアルに従ってファームウェアをサポートされているバージョンにアップデートします。





# 索引

---

## D

### DHCP

サービスの衝突, 26  
設定, 14

## N

### N1 System Manager

アンインストール, 23

### N1 System Manager ソフトウェア

インストール ISO イメージのダウンロード, 10  
インストール ISO イメージのマウント, 10

## S

Sun Download Manager, ダウンロード, 10

## V

V20z および V40z, デフォルトの資格, 26

V210、V240、V440 の各サーバー, デフォルトの資格, 26

## X

X4100 サーバーおよび X4200 サーバー, デフォルトの資格, 26

## あ

アンインストール, N1 System Manager, 23

## い

### インストール

ISO イメージ, ダウンロード, 10-11

ISO イメージ, マウント, 10

N1 System Manager ソフトウェア, 11-13

N1 System Manager のインストール ISO イメージのダウンロード, 10

前提条件, 9-11

方法, 9

### インストール ISO イメージ

ダウンロード, 10

マウント, 10

## え

エラー, 重要度, 16

エラーメッセージ, 27-28

## か

ガイドライン, パフォーマンス, 19-20

### 管理サーバー

DHCP 設定, 14

N1 System Manager ソフトウェアのインストール, 11-13

## 管理サーバー (続き)

N1 System Manager ソフトウェアの設定, 14-18

## N1 System Manager

インストール, 11-13

設定, 14-18

## 管理サーバー

パフォーマンスチューニング, 20-22

## し

### 障害追跡, 25

DHCP サービスの衝突, 26

DHCP の起動失敗, 28

/etc/hosts の更新, 29

/etc/resolv.conf の更新, 29-30

IP アドレスが 127.0.0.1 に解決される, 28

SP-IPaddress 更新時の例外, 27

SPS を起動できない, 27

V20z サーバーまたは V40z サーバーを検出できない, 28

エラーメッセージ, 27-28

管理サーバーへの接続失敗 (接続拒否), 27

サーバー名を判別できない, 27

ターゲット 'Makefile' に対してコマンド失敗, 27

プロビジョニング可能なサーバー, デフォルトの資格, 26

プロビジョニング可能なサーバーの自動設定を無効にする, 30

プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアの確認, 30

プロビジョニング可能なサーバーを検出できない, 26

## せ

### 設定

DHCP, 14

N1 System Manager ソフトウェア, 14-18

プロビジョニング可能なサーバーのファームウェアの確認, 30

前提条件, インストール, 9-11

## た

### ダウンロード

Sun Download Manager, 10

インストール ISO イメージ, 10-11

## ち

チューニング, パフォーマンス, 20-22

## て

### デフォルトの資格

V20z および V40z, 26

V20z サーバーと V40z サーバー, 26

V210、V240、V440 の各サーバー, 26

X4100 サーバーおよび X4200 サーバー, 26

プロビジョニング可能なサーバー, 26

## と

### トラブルシューティング

V20z サーバーまたは V40z サーバー, デフォルトの資格, 26

V210、V240、V440 の各サーバー, デフォルトの資格, 26

X4100 サーバーまたは X4200 サーバー, デフォルトの資格, 26

## は

パフォーマンスチューニング, 20-22

パフォーマンスのガイドライン, 19-20

## ふ

ファームウェア, プロビジョニング可能なサーバー, 確認, 30

プロビジョニング可能なサーバー

検出時の自動設定を無効にする, 30

検出できない, 26

デフォルトの資格, 26

ファームウェアの確認, 30

ろ

ログ, エラーの重要度, 16

